

Ⅲ. 研究のすすめ方

研究部

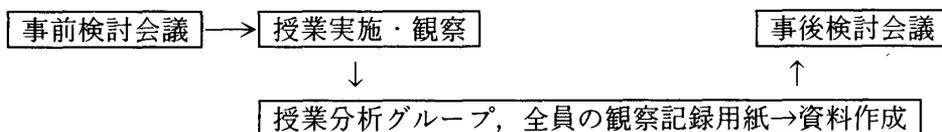
1. 授業研究を中心にした研究の推進

本校の研究体制は、毎年6月に実施される教育研究会を軸にしている。つまり、教育研究会は、それまでの研究の集大成であると同時に、次の研究へのスタートでもある。本年度も、第94回東雲教育研究会が6月10日(金)・11日(土)に「学習のめあてを達成する子どもの育成」というテーマで公開された。この研究で討議された内容を踏まえ、6月以降、つまり今年度の研究の方向を設定した。その具体的な内容はⅡ章に記してある。

この新しく設定された研究テーマについて、基本的には、授業研究を中心にして研究を推進することとし、次のような校内研究授業についての考え方を校内で確認し合った。

昭和63年度 校内授業研究について

1. 授業研究のスタイル



2. 授業分析グループ

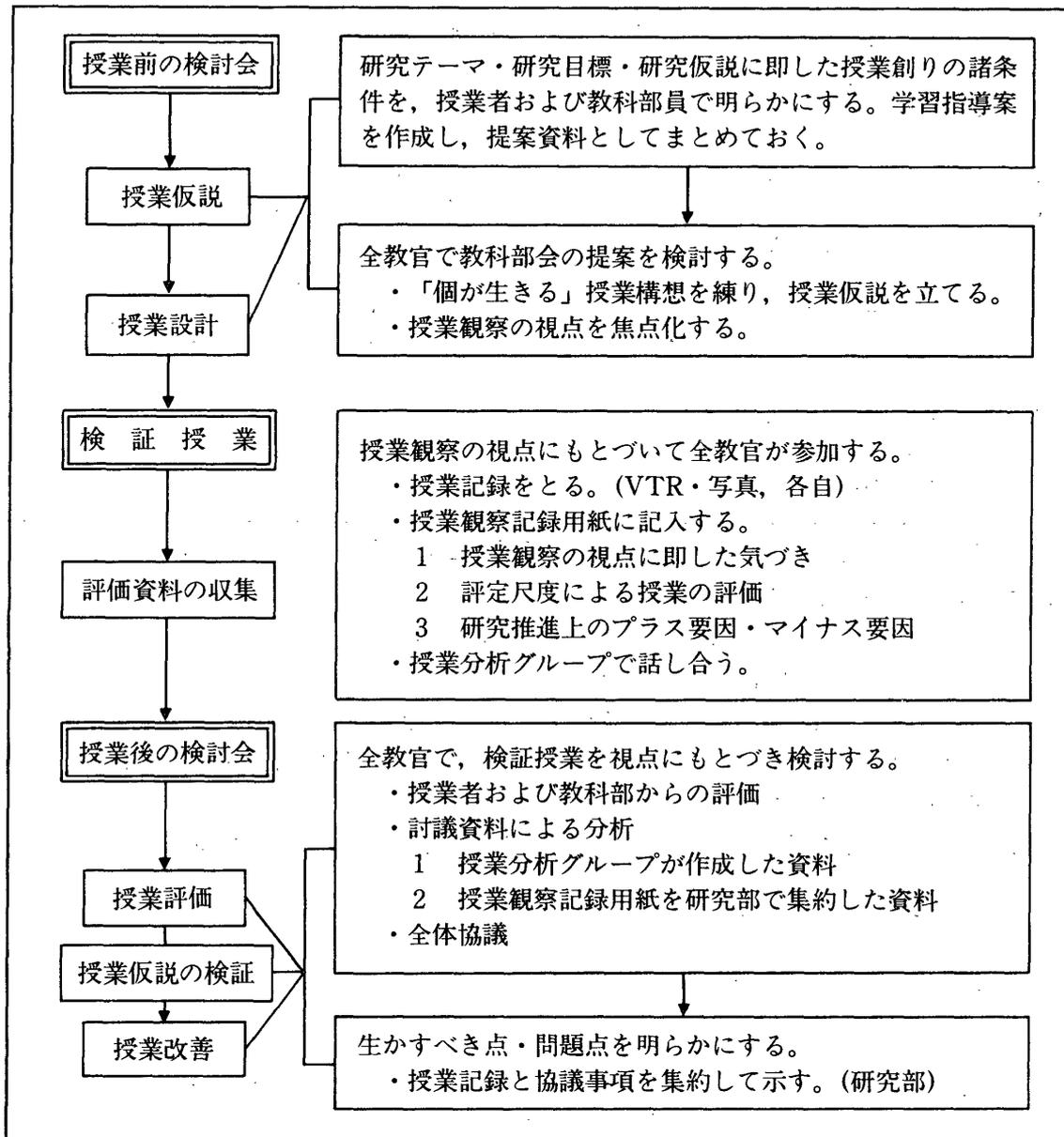
Aグループ	大脊戸, 中神, 井坂, 兼栴, 森, ※丸本
Bグループ	弘法, 吉浦, 竹林地, 真田, 岡本, ※奥
Cグループ	本田, 本吉, 上之園, 藤川, 平岡, ※富村
Dグループ	原田, 檀上, 木村(敦), 増村, 木村(美), ※西村

- ※印の研究部員は、グループごとの話し合いをまとめて資料を作成すること。
- 研究主任(藤原)は、全員の観察記録用紙を整理して資料を作成すること。

3. 授業研究年間計画

月	教科, 領域 (分析グループ) 【授業者】	
9	社会科 (A) 【上之園教諭】	音楽科 (D) 【井坂教諭】
10	国語科 (B) 【本吉教諭】	障害児教育 (C) 【竹林地教諭】
11	理科 (A) 【藤原教諭】	図画工作科 (B) 【増村教諭】
12	生活科 (D) 【中神教諭】	※ 本年度は家庭科・体育科の授業研究は実施しない。
2	算数科 (C) 【奥教諭】	

上述した授業研究のスタイル（手順）を詳しく記述すると次のようになる。



2. 授業分析グループの役割

この役割推進に大きな役割を果たすのが授業分析グループである。事前検討会議で提案される教科部・領域構成員並びに授業者の資料をもとに、全員で協議し、授業を観察し分析する視点を明確にしていく。ここに提案される資料の主なものは次の要件を含んでいる。

- 研究テーマに対する各教科・領域の基本的な考え方と研究の方向性を明らかにする。
- 基本的な考え方を明らかにするための学習指導案。指導案には基本的な内容の記述に加えて提案授業に関する研究の視点を明らかにしておくこと。

これらの資料をもとに協議されたことを踏まえ、授業分析グループでは、授業をより効果的に分析するため、授業者とも連絡を取りながら、分析のための打ち合わせをする。打ち合わせる主な内容は次のようなことである。

① 授業を分析する視点を踏まえどのような資料を作成するか見通しておく。次の表は、9月に実施された音楽科授業研究に使用したものである。

<p>音楽科授業研究分析グループ 「音楽でうちゅうを表そう」(複式高学年)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ活動の中で個が生きていたか ・カードにまとめる段階で 準備の段階で 演奏の段階で
<p>観察の観点</p> <p>次の観点で一つのグループを決めて観察し、それに基にして話し合う。</p> <p>1) 歌唱指導における個の特性に応じた表現の工夫について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実態をどう把握し、それをどう指導に生かしたか。(言葉かけ、賞賛、場づくりなどを通して) ・評価は? <p>2) 個人・グループでイメージしたことが表現できたか</p> <p>① グループごとの発表において</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演奏の中でイメージがどう生かされていたか 	<p>② 学習カードへの記述内容について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どのように言語表現ができているか ・聴く側の観点になっていたか ・感想とどのように結び付いていたか <p>3) 良さを認め合う場を設定したか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どのような場を設けたか ・そこでどのような交流があったか 個人・グループ・全体・教師の間で ・よりよい表現へ発展するために、どう効果があったか ・意欲や姿勢に、どう効果があったか <p>4) その他</p>

② 教育機器を活用した効果的な記録の方法や授業おこしの方法について検討する。(VTRによる録画、写真撮影などを含めて)

③ 研究推進に当たってVTRでカバーしきれない児童の活動の様子をどの程度記録するか確認する。(抽出児童の決定と記録方法などの確認)

②, ③をもとに作成された資料が次の表である。「授業の流れ」は指導案から、「時間」、「教師の発問や働きかけ」、「全体の様子—児童の反応を中心に」は②をもとに、「児童の反応—1年生男子から2年生女子」については③をもとにして作成している。この授業(生活科授業研究12月実施)では、グループごとの児童の動きを記録しているが、研究の目的に応じては抽出児童の記録を載せる場合も多い。

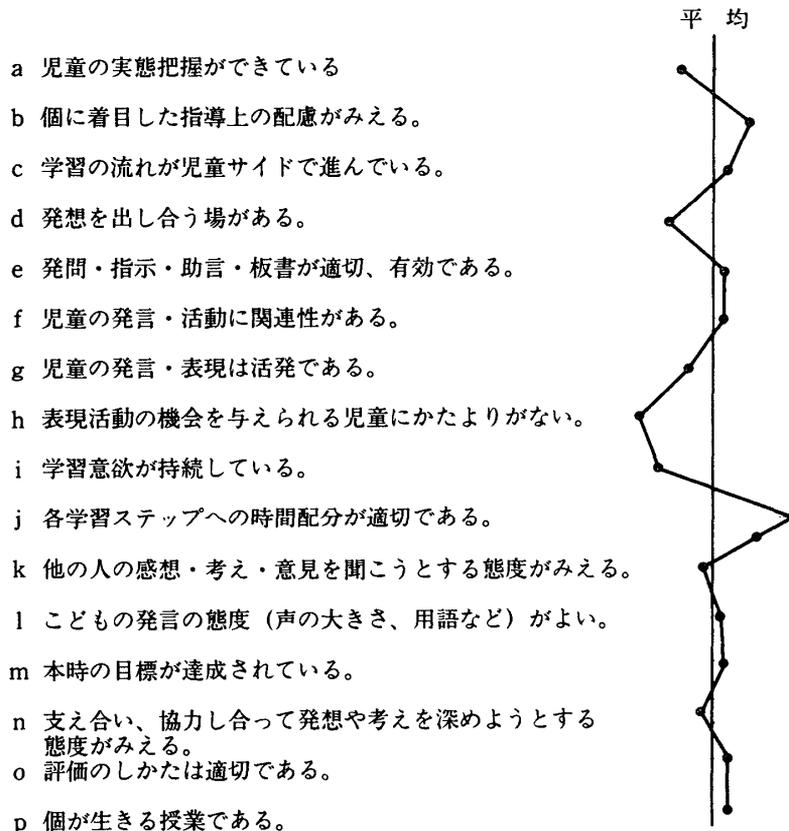
学習の流れ	時間	教師の発問や働きかけ	全体の様子 (児童の反応を中心に)	児童の反応 1年生 男子	1年生 女子	2年生 男子	2年生 女子
伝えたいこと	07	〇〇君の体育のことを心配していたね。劇を見ていなかったんだね。そういえば、下溶岩でよく遊んでいたね。		〇〇君「チキチキパンのパンのこと」		〇〇君「下溶岩のことで」	
		もうすこしくわしく。いま何を習っているの?	「おうまはみんな」	〇〇君「避難訓練のことです」	〇〇さん「紙版画のことです」	〇〇さん「毎日しとったもん。」	〇〇さん「音楽のことです」
		今習っているんだね。	「おどってあげる」	〇〇君「なわとびのことです」	〇〇さん「ふしぎなたけのことです」	〇〇君「みんなで歌を歌う」「今習っている歌」	〇〇さん「かけざん九の九のことです」
		同じでもいいですよ。			〇〇さん「かけっこのこと」	〇〇君「一年生の時野球をやったこと」	
		うわあ〇〇君いっぱいあるね。		〇〇君「想画大会のこと」	〇〇さん「今遊んでいること」		〇〇さん「なわとびのがんばりカードをもらったこと」
	10	〇〇君はその時いなかったっけ、いなかったね。		〇〇君「体育の時、ランドを二周したこと」	〇〇さん「朝なわとびを」と	〇〇君「なわとびで運動場を2、3周まわったこと」	〇〇さん「チキチキパンの劇のことです」
		いっぱいあるね。それでは二人がまとめるね。		〇〇君「あやとびができたこと」			
		〇〇君は日記にこつもかいてたよね。じゃあね。自分はどんなことを伝えたいか一番伝えたいことを書いてください。書いていたらここにはって、誰のかわかりやすいように「何なにしたこと〇〇〇」と書いてください。		〇〇君「磁石ではれば、いい」		〇〇君「でもはずれるのがある」	

3. 事後検討会議と研究成果のまとめ

事後検討会議には次の2つの資料が準備され、これらの資料をもとにして協議される。

- ・ 授業研究観察記録のまとめ
- ・ 授業分析グループが作成した資料

授業研究観察記録のまとめは、次のようにして作成される。授業を観察する全教諭に「授業観察記録用紙」が配布される。これを研究部で回収し集約して、研究テーマ推進に当たってのプラス要因、マイナス要因を整理する。また、授業のプロフィールとして各教諭の記入した7段階の選択尺度法による評価の平均を求めて提示している。次の表は、2月に実施された算数科の授業研究で作成された観察記録のまとめである。



プロフィールを求める項目には各授業研究に共通しているものと、それぞれのねらいに応じて作成したものがある。上記の項目のうち、mやnなどの項目は授業のねらいを意図して設定したものである。他の教科について、いくつかその例を記述すると次のようである。

〈理科〉 単元名「てこ」（6年）

- ・ 児童が体感できる道具、時間に配慮がある。
- ・ 自己内対話の時間が保証されている。
- ・ 対人対話により、自己認識・自己修正ができる。

〈図画工作科〉 題材名「ゆめのランプをつくろう」（4年）

- ・ 素材に触れる合う場が、本時に生かされている。
- ・ 児童の制作意欲が高い。
- ・ 児童作品・示範作品の提示は、発想の広がりにつながっている。

授業分析グループが作成する資料には、前述した「授業記録」に加え授業を分析する視点を踏まえて検討した「分析のまとめ」が含まれている。その提案をもとに、事後検討の話し合いが行われる。そして、その研究成果は本研究紀要IV章にまとめている。

（研究部 藤原凡人，西村 究，丸本克巳，富村 誠，奥 金実）